

この街が好きだから

大須賀一雄 武蔵野スケッチ物語

no. 56

桜堤三丁目
付近にて

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。

そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。



この作品は、小金井公園沿いで、桜に想いを寄せながら描いたものである。桜を見ているうちに、ふとチェリー・ストンという言葉を思い出した。さくらんぼの種という意味で、この場合のストンは、石ではなく種ということである。

ところで、同じ物なのに日本語と英語で表現が異なる言葉がある。例えば、紅茶は英語でブラック・ティー、また避雷針は英語でライトニング・アレスター（雷を捕らえる物）と、考え方の相違で表現が異なるのが面白い。

かつて、アメリカ人から山手線に関するクイズを二つ出されたことがあった。一つ目はアルファベットで二文字の駅はどこか？二つ目は、三つの箱と三本の線の駅はどこか？というものであった。最初の答えは神田（K・AND・A）、二つ目は品川だとのこと。日本人には、思いつかないようなクイズだと思った。

（絵と文：大須賀一雄）

Profile

大須賀一雄
（おおすかかずお）

水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。